

「図書館開放プロジェクト」

▶▶ キーワード 学校における働き方改革、地域学校協働活動リーダー



取組概要

地域人材を活用した、週休日等における学校図書館の生徒への開放

取り組みの詳細

- 生徒が土日や休日等に学校図書館を利用して学習するためには、校舎の開閉、施錠等、一定の管理が発生するため、管理する人材の確保が必要。
- **地域人材を活用した地域学校協働活動として行うことで、生徒の主体的な学びの支援を行うプロジェクトが実現。**
- 生徒は通常の学習活動にとどまらず、探究活動における資料収集や検証活動等を土日や休日の時間を活用し、有効に行っている。

活動内容

- 地域人材による学校図書館開放時の施設管理・運営
- 協働活動リーダーによる従事シフト表等の作成、協働活動サポーターへの連絡・調整
- 使用状況の確認

● 成果・効果

- ・ 生徒からのニーズに合った形で図書館を開放することができ、生徒の主体的な学びの支援が実現。
 - ・ Wi-Fi環境のある図書館を開放することで、土日・休日等におけるBYAD（※）による学び、生徒の自主的な探究活動が促進。
 - ・ 教職員の時間外勤務を増やすことなく、事業を実施。
- ※Bring Your Assigned Deviceの略語。企業や学校などが指定するデバイスを、従業員や児童・生徒が購入して業務や学習に使用すること。

● 関係者の声

- ・ 考査期間中は校外の図書館等の自習席の確保は困難だったので、学校図書館の開放はとても有り難い。
- ・ 計画的、効果的な学習に繋がった。

● 活動データ

- ・ 協働活動リーダー 1名
- ・ 協働活動サポーター 約15名